

腹壁癒痕ヘルニアに対する Mesh repair 法の検討

■ 研究の対象となる方

2013年4月～2020年6月に当院で腹壁癒痕ヘルニアに対して手術を受けられた方

■ 目的・方法

腹壁癒痕ヘルニアは腹部手術創が脆弱になることにより腹腔内臓器が脱出するもので、腹部手術後に約11%に生じると報告されています。治療法としては単純縫縮術とメッシュと呼ばれる補強剤を用いる Mesh repair 法があり、患者さんの状態によっては経過観察となることもあります。ガイドライン上は、ヘルニア門2cm以上であれば Mesh repair 法が再発抑制に優れているとされていますが、メッシュ関連の合併症や長期的デメリット等も考慮した対応が必要であり、実際には単純縫縮術で修復される症例も多くあります。今回、腹壁癒痕ヘルニアに対する Mesh repair 法の有用性について検討します。

■ 実施期間

2020年10月29日～2022年3月

■ 研究に使用する情報

年齢、性別、身長、体重、併存疾患、既往歴、前回手術歴、喫煙歴、ASA-PS、再発の有無 等診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 外科 光浦 智証（研究責任者） 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
-----	------------------------------------------------------------------------

以上